告　　示

埼玉県告示第千百五十八号

平成十一年埼玉県告示第千五百八十八号（埼玉県環境影響評価技術指針について）の一部を次のように改正し、公布の日から施行する。

平成二十七年十月十六日

埼玉県知事　上　田　清　司

第一の三（一）エ中「各」を削る。

第一の別表一中「

環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物
		残土
		雨水及び処理
	温室効果ガス等	温室効果ガス
		オゾン層破壊

を「

環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等
	温室効果ガス等
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量

」

水
＊8
物質＊9

」

廃棄物
残土
雨水及び処理水
温室効果ガス＊[8]
オゾン層破壊物質＊[9]
放射線の量

」に改める。

第一の別表二中「

文化財その他の生活環境の状況

」を「

文化財その他の生活環境の状況
一般環境中の放射性物質に係る環境の状況

」に改める。

第一の別表三―一から別表三―十二までを次のように改める。

別表３－１　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（道路）

事業の種類				道路									
影響要因の区分				工事				存在・供用					
環境影響要因の例 ＼ 調査・予測・評価の項目				建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	切土工等又は既存の工作物の除去	工事用道路、工事ヤード等の設置	道路等の存在			工事用道路等の跡地の存在	自動車の走行	休憩所の供用
								地表式	盛上式	堀割式又は地下式			
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		△＊１	△＊１							○	
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物											
		浮遊粒子状物質										○	
		炭化水素										○	
		粉じん		○	○								
		大気質に係る有害物質等											
	騒音・低周波音	騒音		○	○							○	
		低周波音										△＊３	
	振動	振動		○	○							○	
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度											
		特定悪臭物質											
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量										○
			浮遊物質量			○							○
			窒素及び燐										
			水温										
			水素イオン濃度										
			溶存酸素量										
			その他の生活環境項目										
			健康項目等										
		底質	強熱減量										
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量										
			底質に係る有害物質等										
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目										
	水象	河川等の流量、流速及び水位											
		地下水の水位及び水脈				○				○			
		温泉及び鉱泉											
		堤防、水門、ダム等の施設											
	土壌	土壌に係る有害項目											
	地盤	地盤沈下											
	地象	土地の安定性				○		○		△＊５			
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）					○	○					
		表土の状況及び生産性						○	△＊４	△＊５			
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種		△＊２				○				△＊２	△＊２
	植物	保全すべき種				△＊２		○				△＊２	
		植生及び保全すべき群落				△＊２		○				△＊２	
		緑の量						△＊１					
	生態系	地域を特徴づける生態系		△＊２				○				△＊２	△＊２
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）						○					
		眺望景観						○					
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場		△＊２				○				△＊２	
	史跡・文化財	指定文化財等						○					
		埋蔵文化財						○					
	日照阻害	日影の状況							○				
	電波障害	電波受信状況							○				
	風害	局所的な風の発生状況											
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○							○
		残土				○							
		雨水及び処理水											
	温室効果ガス等	温室効果ガス		○	○	○	○					○	○
		オゾン層破壊物質											
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量		△＊６	△＊６	△＊６	△＊６						

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊１：都市的地域（市街化が進行している地域又はこれに準ずる地域。以下同じ。）の場合

＊２：自然的地域（森林、湿地等多様な生物が生息・生育する地域その他自然環境の豊かな地域。以下同じ。）の場合

＊３：高架式で大型車の交通量が多い場合

＊４：盛土式の場合

＊５：堀割式の場合

＊６：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３―２　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（ダム又は放水路）

事業の種類			ダム又は放水路															
影響要因の区分			工事									存在・供用						
環境影響要因の例 ＼ 調査・予測・評価の項目			ダム						放水路			ダム						放水路
			建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	ダムの堤体等の工事	原石の採取	道路の付替え工事	工事用道路等の設置工事	建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	放水路等の工事	ダムの堤体の存在	付替え道路の存在	原石採取跡の存在	工事用道路跡地等の存在	貯水池の存在	ダムの放水	放水路の存在・供用
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物							△＊1	△＊1								
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物																
		浮遊粒子状物質																
		炭化水素																
		粉じん	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
		大気質に係る有害物質等																
	騒音・低周波音	騒音	○	○	△＊2				○	○	○							
		低周波音			△＊2													
	振動	振動	○	○	△＊2				○	○	○							
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度																
		特定悪臭物質																
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量													○		
			浮遊物質量		○	○	○	○			○					○		○
			窒素及び燐													○		
			水温													○		
			水素イオン濃度		○													
			溶存酸素量													○		
			その他の生活環境項目															
			健康項目等															
		底質	強熱減量															
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量															
			底質に係る有害物質等															
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目															○
	水象	河川等の流量、流速及び水位			○						○	○				○		○
		地下水の水位及び水脈										○				○		○
		温泉及び鉱泉																
		堤防、水門、ダム等の施設																○
	土壌	土壌に係る有害項目																
	地盤	地盤沈下																○
	地象	土地の安定性			○	○	○					○	○	○				
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）												○				○
		表土の状況及び生産性																
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種			○				△＊3		○			○			○	○
	植物	保全すべき種			○	○	○	○			○			○			○	○
		植生及び保全すべき群落			○	○	○	○			○			○			○	○
		緑の量																△＊1
	生態系	地域を特徴づける生態系			○				△＊3					○			○	○
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）												○				○
		眺望景観												○			○	○
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場			○						○			○			○	○
	史跡・文化財	指定文化財等												○				○
		埋蔵文化財												○				○
	日照阻害	日影の状況																
	電波障害	電波受信状況																
	風害	局所的な風の発生状況																
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○					○							
		残土				○					○							
		雨水及び処理水																
	温室効果ガス等	温室効果ガス	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
		オゾン層破壊物質																
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量	△＊4						△＊4									

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊1：都市的地域の場合

＊2：大規模な発破工事のある場合

＊3：自然的地域の場合

＊4：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３―３　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（鉄道・軌道）

事業の種類				鉄道・軌道								
影響要因の区分				工事				存在・供用				
環境影響要因の例 ＼ 調査・予測・評価の項目				建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	切土工等又は既存の工作物の除去	工事用道路、工事ヤード等の設置	鉄道施設の存在 地表式	鉄道施設の存在 嵩上式	鉄道施設の存在 堀割式又は地下式	列車の走行	駅舎等の供用（駅周辺の交通量の増加を含む。）
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		△＊1	△＊1							△＊4
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物										
		浮遊粒子状物質										
		炭化水素										
		粉じん		○	○							
		大気質に係る有害物質等										
	騒音・低周波音	騒音		○	○						○	△＊4
		低周波音									△＊3	
	振動	振動		○	○						○	
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度										
		特定悪臭物質										
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量									○
			浮遊物質量			○						
			窒素及び燐									
			水温									
			水素イオン濃度									
			溶存酸素量									
			その他の生活環境項目									
			健康項目等									
		底質	強熱減量									
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量									
			底質に係る有害物質等									
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目									
	水象	河川等の流量、流速及び水位										
		地下水の水位及び水脈				○				○		
		温泉及び鉱泉										
		堤防、水門、ダム等の施設										
	土壌	土壌に係る有害項目										
	地盤	地盤沈下										
	地象	土地の安定性				○		○		△＊6		
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）						○				
		表土の状況及び生産性						○	△＊5	△＊6		
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種		△＊2				○			△＊2	△＊2
	植物	保全すべき種				△＊2		○				
		植生及び保全すべき群落				△＊2		○				
		緑の量						△＊1				
	生態系	地域を特徴づける生態系		△＊2				○			△＊2	△＊2
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）						○				
		眺望景観						○				
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場		△＊2				○			△＊2	
	史跡・文化財	指定文化財等						○				
		埋蔵文化財						○				
	日照阻害	日影の状況							○			
	電波障害	電波受信状況							○			
	風害	局所的な風の発生状況										
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○						○
		残土				○						
		雨水及び処理水										
	温室効果ガス等	温室効果ガス		○	○	○	○				○	○
		オゾン層破壊物質										
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量		△＊7	△＊7	△＊7	△＊7					

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊1：都市的地域の場合

＊2：自然的地域の場合

＊3：列車が高速でトンネルに進入する場合（反対側のトンネル口への影響）又は高架式の場合

＊4：著しい交通量の増加が想定される場合

＊5：盛土式の場合

＊6：堀割式の場合

＊7：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３－４　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（飛行場）

事業の種類				飛行場							
影響要因の区分				工事			存在・供用				
環境影響要因の例				建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	飛行場の存在		航空機の運航		飛行場施設の供用（周辺交通量の増加を含む。）
調査・予測・評価の項目				（飛行場の場合のみ）			飛行場	ヘリポート	飛行場	ヘリポート	飛行場
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		○	○				○		○
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物									
		浮遊粒子状物質									
		炭化水素							○		○
		粉じん		○	○	○					
		大気質に係る有害物質等									
	騒音・低周波音	騒音		○	○				○	○	○
		低周波音									
	振動	振動		○	○						○
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度									
		特定悪臭物質									
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量								○
			浮遊物質量			○					
			窒素及び燐								
			水温								
			水素イオン濃度								
			溶存酸素量								
			その他の生活環境項目								
			健康項目等								
		底質	強熱減量								
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量								
			底質に係る有害物質等								
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目								
	水象	河川等の流量、流速及び水位					○				
		地下水の水位及び水脈									
		温泉及び鉱泉									
		堤防、水門、ダム等の施設									
	土壌	土壌に係る有害項目									
	地盤	地盤沈下									
	地象	土地の安定性									
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）					○				
		表土の状況及び生産性					○				
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種		○			○		△＊２	△＊２	
	植物	保全すべき種				○	○				
		植生及び保全すべき群落				○	○				
		緑の量					△＊１				
	生態系	地域を特徴づける生態系		○			○		△＊２	△＊２	
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					○				
		眺望景観					○				
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場		○			○		○	○	
	史跡・文化財	指定文化財等					○				
		埋蔵文化財					○				
	日照阻害	日影の状況									
	電波障害	電波受信状況							○		
	風害	局所的な風の発生状況									
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○					○
		残土				○					
		雨水及び処理水									○
	温室効果ガス等	温室効果ガス		○	○	○			○	○	○
		オゾン層破壊物質									
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量		△＊３	△＊３	△＊３					

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊１：都市的地域の場合

＊２：自然的地域の場合

＊３：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３―５　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（工場・廃棄物処理施設・下水道終末処理場）

事業の種類				工場・廃棄物処理施設・下水道終末処理場												
影響要因の区分				工事			存在・供用									
環境影響要因の例 ＼ 調査・予測・評価の項目				建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事（工場（施行面積20ha以上）及び最終処分場）	造成地・施設の存在		施設の稼働							自動車等の走行
							工場（施行面積20ha以上）及び最終処分場	その他	工場	ごみ処理施設	し尿処理施設	産業廃棄物中間処理施設	下水道終末処理場	廃棄物最終処分場		
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		○	○				○	○		○				○
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物							○	○		○				
		浮遊粒子状物質							○	○		○				○
		炭化水素							○							○
		粉じん		○	○	○								○		○
		大気質に係る有害物質等							○	○		○				
	騒音・低周波音	騒音		○	○				○	○	○	○	○	○		○
		低周波音							○	○	○	○	○	○		
	振動	振動		○	○				○	○	○	○	○	○		○
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度							○	○	○	○	○	○		
		特定悪臭物質							○	○	○	○	○	○		
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量						○	△＊6	○	△＊6	○	○		
			浮遊物質量			○				△＊6	○	△＊6	○	○		
			窒素及び燐						○	△＊6	○	△＊6	○	○		
			水温													
			水素イオン濃度			△＊3				△＊6	○	△＊6	○	○		
			溶存酸素量							△＊6	○	△＊6	○	○		
			その他の生活環境項目							△＊6	○	△＊6	○	○		
			健康項目等						○	△＊6	○	△＊6	○	○		
		底質	強熱減量													
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量													
			底質に係る有害物質等						○	○		○		○		
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目						○			○		○		
	水象	河川等の流量、流速及び水位					○						○			
		地下水の水位及び水脈				○								○		
		温泉及び鉱泉														
		堤防、水門、ダム等の施設											○			
	土壌	土壌に係る有害項目							○	○		○		○		
	地盤	地盤沈下														
	地象	土地の安定性			○	○										
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）			○	○	△＊2							○		
		表土の状況及び生産性				○										
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種		○			○	△＊2						○		
	植物	保全すべき種				○	○	△＊2						○		
		植生及び保全すべき群落				○	○	△＊2						○		
		緑の量					△＊1	△＊1								
	生態系	地域を特徴づける生態系		○			○	△＊2						○		
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					○	△＊2						○		
		眺望景観					○	○						○		
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場		○			○	△＊2	△＊2	△＊2	△＊2	△＊2	△＊2	△＊2		
	史跡・文化財	指定文化財等					○	△＊2								
		埋蔵文化財					○	△＊2								
	日照阻害	日影の状況					○	○								
	電波障害	電波受信状況					○	○								
	風害	局所的な風の発生状況														
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○			○	○	○	○	○			
		残土				○										
		雨水及び処理水							○							
	温室効果ガス等	温室効果ガス		○	○	○			○	○	○	○	○	○		○
		オゾン層破壊物質							△＊4	△＊5		△＊5				
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量		△＊7	△＊7	△＊7								△＊7		

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊１：都市的地域の場合

＊２：立地条件による

＊３：沢部の廃棄物最終処分場の場合

＊４：薬種による

＊５：フロン等を含む廃棄物を処理する場合

＊６：公共用水域に排水する場合

＊７：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３―６　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（高層建築物）

事業の種類				高層建築物					
影響要因の区分				工事			存在・供用		
調査・予測・評価の項目		環境影響要因の例		建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	敷地及び施設の存在	施設の稼働及び人の利用	自動車交通の発生
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		○	○				○
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物							
		浮遊粒子状物質							○
		炭化水素							○
		粉じん		○	○	○			
		大気質に係る有害物質等							
	騒音・低周波音	騒音		○	○				○
		低周波音							
	振動	振動		○	○				○
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度							
		特定悪臭物質							
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量						
			浮遊物質量			○			
			窒素及び燐						
			水温						
			水素イオン濃度						
			溶存酸素量						
			その他の生活環境項目						
			健康項目等						
		底質	強熱減量						
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量						
			底質に係る有害物質等						
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目						
	水象	河川等の流量、流速及び水位							
		地下水の水位及び水脈				○	○		
		温泉及び鉱泉							
		堤防、水門、ダム等の施設							
	土壌	土壌に係る有害項目							
	地盤	地盤沈下							
	地象	土地の安定性							
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）							
		表土の状況及び生産性							
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種					△＊１		
	植物	保全すべき種					△＊１		
		植生及び保全すべき群落					△＊１		
		緑の量					○		
	生態系	地域を特徴づける生態系					△＊１		
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					△＊１		
		眺望景観					○		
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場					△＊１		
	史跡・文化財	指定文化財等					△＊１		
		埋蔵文化財					△＊１		
	日照阻害	日影の状況					○		
	電波障害	電波受信状況					○		
	風害	局所的な風の発生状況					○		
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○		○	
		残土				○			
		雨水及び処理水						○	
	温室効果ガス等	温室効果ガス		○	○	○		○	○
		オゾン層破壊物質							
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量		△＊２	△＊２	△＊２			

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊１：立地条件による

＊２：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３―７　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（住宅団地・区画整理）

事業の種類				住宅団地・区画整理							
影響要因の区分				工事			存在・供用				
調査・予測・評価の項目 ＼ 環境影響要因の例				建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	造成地の存在	施設の存在	居住施設の供用	業務用施設の供用	自動車交通の発生
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		○	○						○
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物									
		浮遊粒子状物質									
		炭化水素									
		粉じん		○	○	○					
		大気質に係る有害物質等									
	騒音・低周波音	騒音		○	○					△＊3	○
		低周波音									
	振動	振動		○	○						○
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度									
		特定悪臭物質									
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量						○	○	
			浮遊物質量			○					
			窒素及び燐								
			水温								
			水素イオン濃度								
			溶存酸素量								
			その他の生活環境項目								
			健康項目等								
		底質	強熱減量								
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量								
			底質に係る有害物質等								
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目								
	水象	河川等の流量、流速及び水位					○				
		地下水の水位及び水脈					△＊2				
		温泉及び鉱泉									
		堤防、水門、ダム等の施設									
	土壌	土壌に係る有害項目									
	地盤	地盤沈下					△＊2				
	地象	土地の安定性				○	○				
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）					○				
		表土の状況及び生産性					○				
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種			○		○			△＊4	
	植物	保全すべき種				○	○				
		植生及び保全すべき群落				○	○				
		緑の量					△＊1				
	生態系	地域を特徴づける生態系			○		○			△＊4	
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					○				
		眺望景観				○					
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場			○		○	○		△＊4	
	史跡・文化財	指定文化財等					○				
		埋蔵文化財					○				
	日照阻害	日影の状況									
	電波障害	電波受信状況									
	風害	局所的な風の発生状況									
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○			○	○	
		残土				○					
		雨水及び処理水							○	○	
	温室効果ガス等	温室効果ガス		○	○	○			○	○	○
		オゾン層破壊物質									
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量		△＊5	△＊5	△＊5					

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊１：都市的地域の場合

＊２：水田地帯に立地する場合

＊３：商業施設等、業務施設の内容による

＊４：騒音を生じる施設であって、自然的地域の場合

＊５：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３―８　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（工業団地・流通業務施設）

事業の種類				工業団地・流通業務施設								
影響要因の区分				工事			存在・供用					
調査・予測・評価の項目 ＼ 環境影響要因の例				建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	造成地の存在	施設の存在	施設の稼働		自動車交通の発生	
									工業団地	流通業務施設	工業団地	流通業務施設
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		○	○				○		○	○
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物							○			
		浮遊粒子状物質							○		○	○
		炭化水素									○	○
		粉じん		○	○	○						
		大気質に係る有害物質等							○			
	騒音・低周波音	騒音		○	○				○		○	○
		低周波音							○			
	振動	振動		○	○				○		○	○
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度							○			
		特定悪臭物質										
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量						○	△＊４		
			浮遊物質量			○						
			窒素及び燐						○			
			水温									
			水素イオン濃度									
			溶存酸素量									
			その他の生活環境項目									
			健康項目等						○			
		底質	強熱減量									
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量									
			底質に係る有害物質等						○			
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目						○			
	水象	河川等の流量、流速及び水位					○					
		地下水の水位及び水脈					△＊３					
		温泉及び鉱泉										
		堤防、水門、ダム等の施設										
	土壌	土壌に係る有害項目							○			
	地盤	地盤沈下					△＊３					
	地象	土地の安定性				○	○					
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）					○					
		表土の状況及び生産性					○					
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種			○		○					
	植物	保全すべき種				○	○					
		植生及び保全すべき群落				○	○					
		緑の量					△＊１					
	生態系	地域を特徴づける生態系			○		○					
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					○	○				
		眺望景観					○					
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場			○		○	○	△＊２	△＊２		
	史跡・文化財	指定文化財等					○					
		埋蔵文化財					○					
	日照阻害	日影の状況						○				
	電波障害	電波受信状況						○				
	風害	局所的な風の発生状況										
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○			○	○		
		残土				○						
		雨水及び処理水							○	○		
	温室効果ガス等	温室効果ガス		○	○	○			○	○	○	○
		オゾン層破壊物質							△＊５			
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量		△＊６	△＊６	△＊６						

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊１：都市的地域の場合

＊２：立地条件による

＊３：水田地帯に立地する場合

＊４：卸売市場等で相当程度の洗浄水等を使用する場合

＊５：業種による

＊６：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３－９　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（研究所・学校）

事業の種類				研究所・学校						
影響要因の区分				工事			存在・供用			
調査・予測・評価の項目 ＼ 環境影響要因の例				建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	造成地の存在	構造物の存在	学校・研究施設の稼働	自動車交通の発生
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		○	○					○
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物								
		浮遊粒子状物質								
		炭化水素								
		粉じん		○	○	○				
		大気質に係る有害物質等							△＊３	
	騒音・低周波音	騒音		○	○				△＊３	○
		低周波音								
	振動	振動		○	○				△＊３	○
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度							△＊３	
		特定悪臭物質							△＊３	
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量						○	
			浮遊物質量			○				
			窒素及び燐							
			水温							
			水素イオン濃度							
			溶存酸素量							
			その他の生活環境項目							
			健康項目等						△＊３	
		底質	強熱減量							
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量							
			底質に係る有害物質等						△＊３	
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目						△＊３	
	水象	河川等の流量、流速及び水位					○			
		地下水の水位及び水脈					△＊２			
		温泉及び鉱泉								
		堤防、水門、ダム等の施設								
	土壌	土壌に係る有害項目							△＊３	
	地盤	地盤沈下					△＊２			
	地象	土地の安定性				○	○			
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）					○			
		表土の状況及び生産性					○			
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種			○		○			
	植物	保全すべき種				○	○			
		植生及び保全すべき群落				○	○			
		緑の量					△＊１			
	生態系	地域を特徴づける生態系			○		○			
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					○			
		眺望景観					○			
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場			○		○			
	史跡・文化財	指定文化財等					○			
		埋蔵文化財					○			
	日照阻害	日影の状況								
	電波障害	電波受信状況								
	風害	局所的な風の発生状況								
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○			○	
		残土				○				
		雨水及び処理水							○	
	温室効果ガス等	温室効果ガス		○	○	○			○	○
		オゾン層破壊物質								
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量		△＊４	△＊４	△＊４				

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊１：都市的地域の場合

＊２：水田地帯に立地する場合

＊３：研究施設等の内容による

＊４：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３－１０　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（スポーツ又はレクリエーション施設、墓地又は墓園）

事業の種類				スポーツ又はレクリエーション施設、墓地又は墓園										
影響要因の区分				工事			存在・供用							
調査・予測・評価の項目 ＼ 環境影響要因の例				建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	造成地の存在	構造物の存在		施設の供用		農薬の使用	自動車交通の発生	
								スポーツ又はレクリエーション施設	墓地又は墓園	スポーツ又はレクリエーション施設	墓地又は墓園		スポーツ又はレクリエーション施設	墓地又は墓園
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		○	○								○	○
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物												
		浮遊粒子状物質												
		炭化水素												
		粉じん		○	○	○								
		大気質に係る有害物質等												
	騒音・低周波音	騒音		○	○					○			○	○
		低周波音												
	振動	振動		○	○								○	○
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度												
		特定悪臭物質												
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量							○				
			浮遊物質量			○								
			窒素及び燐											
			水温											
			水素イオン濃度											
			溶存酸素量											
			その他の生活環境項目											
			健康項目等									○		
		底質	強熱減量											
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量											
			底質に係る有害物質等											
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目									○		
	水象	河川等の流量、流速及び水位						○						
		地下水の水位及び水脈												
		温泉及び鉱泉												
		堤防、水門、ダム等の施設												
	土壌	土壌に係る有害項目												
	地盤	地盤沈下												
	地象	土地の安定性				○	○							
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）					○							
		表土の状況及び生産性					○							
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種			○		○			○		○		
	植物	保全すべき種				○	○			△＊２		○		
		植生及び保全すべき群落				○	○			△＊２		○		
		緑の量					△＊１							
	生態系	地域を特徴づける生態系			○		○			○		○		
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					○							
		眺望景観						○						
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場			○		○			○				
	史跡・文化財	指定文化財等					○							
		埋蔵文化財					○							
	日照阻害	日影の状況												
	電波障害	電波受信状況												
	風害	局所的な風の発生状況												
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○				○	○			
		残土				○								
		雨水及び処理水								○				
	温室効果ガス等	温室効果ガス		○	○	○				○			○	○
		オゾン層破壊物質												
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量		△＊３	△＊３	△＊３								

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊１：都市的地域の場合

＊２：自然的地域の場合

＊３：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３－１１　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（浄水施設、変電所）

事業の種類				浄水施設、変電所							
影響要因の区分				工事			存在・供用				
環境影響要因の例 ＼ 調査・予測・評価の項目				建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	造成地の存在	構造物の存在		施設の稼働	
								浄水施設	変電所	浄水施設	変電所
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		○	○						
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物									
		浮遊粒子状物質									
		炭化水素									
		粉じん		○	○	○					
		大気質に係る有害物質等									
	騒音・低周波音	騒音		○	○					○	○
		低周波音									
	振動	振動		○	○					○	
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度									
		特定悪臭物質									
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量								
			浮遊物質量			○					
			窒素及び燐								
			水温								
			水素イオン濃度								
			溶存酸素量								
			その他の生活環境項目								
			健康項目等								
		底質	強熱減量								
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量								
			底質に係る有害物質等								
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目								
	水象	河川等の流量、流速及び水位					○				
		地下水の水位及び水脈									
		温泉及び鉱泉									
		堤防、水門、ダム等の施設									
	土壌	土壌に係る有害項目									
	地盤	地盤沈下									
	地象	土地の安定性				○	○				
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）					○				
		表土の状況及び生産性					○				
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種		○			○				
	植物	保全すべき種				○	○				
		植生及び保全すべき群落				○	○				
		緑の量					△＊1				
	生態系	地域を特徴づける生態系		○			○				
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					○				
		眺望景観						○			
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場		○			○				
	史跡・文化財	指定文化財等					○				
		埋蔵文化財					○				
	日照阻害	日影の状況									
	電波障害	電波受信状況									○
	風害	局所的な風の発生状況									
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○				○	
		残土				○					
		雨水及び処理水									
	温室効果ガス等	温室効果ガス		○	○	○				○	○
		オゾン層破壊物質									
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量		△＊2	△＊2	△＊2					

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊１：都市的地域の場合

＊２：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

別表３－１２　環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表（土石の採取）

事業の種類				土石の採取				
影響要因の区分				存在・供用				
調査・予測・評価の項目 ＼ 環境影響要因の例				土石等の採取場の存在	工作物・機械類の存在	土石の採取行為（重機等の稼働を含む。）	土石の運搬車両の走行	採取跡地の存在
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物					○	
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物						
		浮遊粒子状物質						
		炭化水素				○	○	
		粉じん				○		
		大気質に係る有害物質等						
	騒音・低周波音	騒音				○	○	
		低周波音						
	振動	振動				○	○	
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度						
		特定悪臭物質						
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量					
			浮遊物質量			○		
			窒素及び燐					
			水温					
			水素イオン濃度					
			溶存酸素量					
			その他の生活環境項目					
			健康項目等			○		
		底質	強熱減量					
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量					
			底質に係る有害物質等					
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目					
	水象	河川等の流量、流速及び水位						
		地下水の水位及び水脈						
		温泉及び鉱泉						
		堤防、水門、ダム等の施設						
	土壌	土壌に係る有害項目				○		
	地盤	地盤沈下						
	地象	土地の安定性		○		○		
		地形及び地質（重要な地形及び地質を含む。）		○				
		表土の状況及び生産性						
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種		○		○	○	○
	植物	保全すべき種		○		○		○
		植生及び保全すべき群落		○		○		○
		緑の量						
	生態系	地域を特徴づける生態系		○		○	○	○
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）		○				
		眺望景観		○	○			○
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場		○		○		○
	史跡・文化財	指定文化財等		○				
		埋蔵文化財		○				
	日照阻害	日影の状況						
	電波障害	電波受信状況						
	風害	局所的な風の発生状況						
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				○		
		残土						
		雨水及び処理水						
	温室効果ガス等	温室効果ガス				○	○	
		オゾン層破壊物質						
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量				△＊１	△＊１	

○：標準的に選定する項目　△：事業特性、地域特性により選定する項目

＊１：放射性物質が相当程度拡散・流出するおそれがある場合

第一の別表五に次のように加える。

一般環境中の放射性物質について留意されるべき配慮事項	1　放射性物質の拡散・流出による影響の回避又は低減と。

に努めるこ

第一の別表六に次のように加える。

一般環境中の放射性物質について留意されるべき配慮事項	1　放射性物質を含む粉じんの発生を抑えること。 2　放射性物質を含む表土の降雨による水の濁りの発生 3　放射性物質を含む廃棄物や建設発生土の発生を抑え 4　放射性物質の拡散・流出の防止に努めること。

を抑えること。
ること。

第二に次のように加える。

21　放射線の量

⑴　対象とする調査・予測・評価の項目

放射線の量

⑵　調査

ア　調査内容

(ｱ) 放射線の量の状況（空間線量率等によって把握されるもの）

(ｲ) その他の予測・評価に必要な事項

a　気象の状況

風向・風速、大気安定度（日射量、雲量又は放射収支量）、気温等

b　大気の移流、拡散等に影響を及ぼす地形・地物の状況

c　水象、水質その他の水に係る環境の状況

d　水域利用の状況

e　対象事業等実施区域の土地改変の履歴

f　学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設及び住宅の分布状況

イ　調査方法

既存資料の収集又は現地調査により行う。

ウ　調査地域・地点

(ｱ) 調査地域

事業を実施することにより、放射線に係る環境影響を受けるおそれがある地域

(ｲ) 調査地点

放射線による影響の予測・評価に必要な内容を適切かつ効果的に把握することができる地点

エ　調査期間・頻度

放射線による影響の予測・評価に必要な内容を適切かつ効果的に把握することができる期間・頻度

⑶　予測

ア　予測内容

放射線の量の変化の程度

イ　予測方法

予測は次に示す方法のうち適切な方法を用いて行う。

(ｱ) 保全対象における放射線量が上昇しないか定性的に予測する手法

(ｲ) 環境保全措置を見込まない場合と環境保全措置を講じた場合を比較する手法

(ｳ) 類似事例又は既存知見に基づく推定

ウ　予測条件

(ｱ) 事業特性に係る条件

土地改変計画、工事計画、埋立計画等

(ｲ) 地域特性に係る条件

a　放射性物質の拡散に影響を及ぼす気象の状況

風向・風速、大気安定度（日射量、雲量又は放射収支量）、気温等

b　大気の移流、拡散等に影響を及ぼす地形・地物の状況

c　水象、水質その他の水に係る環境の状況

(ｳ) その他の予測・評価に必要な条件

a　水域利用の状況

b　学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設及

び住宅の分布状況

c　将来の放射線の量の状況（対象事業等以外の要因による変化）

エ　予測地域・地点

(ｱ) 予測地域

放射線による影響が及ぶおそれがあると認められる地域

(ｲ) 予測地点

放射線による影響を的確に把握することができる地点

オ　予測対象時期等

(ｱ) 工事

放射線による影響が最大となる時期

(ｲ) 存在・供用

事業活動等が定常状態となる時期

⑷　評価

次に示す観点から評価する方法

ア　放射線量の上昇が、事業者等により実行可能な範囲内で回避され、又は低減されているかどうかを明らかにする。